

# 羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職をめざす学生・卒業生のために

# COMPASS

第 105 号 2015.1.28(水)発行

関西外国語大学  
教職教育センター

SCET

## 新年明けましておめでとうございます。

2015年1月乙未(きのとひつじ)、「未」は「漢書律歴志」では「食物が茂る。果実が熟する」という意味があるとされ、これは豊作への願いがこめられているということを表していると言われています。学生にとって、豊かな自己実現の年となるよう期待しています。

今年は本学の前身である谷本英学院が誕生して70年目の年、この記念すべき年のスタートです。ICCでは自主ゼミの学生、教職をめざす学生の相談活動、小学校英語のボランティアグループの学生の取組などで、新年早々から活気づいています。とりわけ、3回生、4回生が教員採用選考にむけて「自主ゼミ」を始動させており、現在、3つのグループが7~8人で、TOEFLスコアアップ、教職教養、教育時事問題の討論に取り組んでいます。みんな真剣で、自らに課題を課し、他者と学び合い、互いに情報を交換し合い切磋琢磨する姿は大変頼もしいかぎりです。

また小学校教員コースの2回生が、1月の末から1週間、英語能力アップのために勉強会を計画しています。学生たちが自ら学び合いの場をつくり、互いに教え合うことは真に教師をめざす者の姿そのものだと思います。努力するという能力、学び続けるというチカラ、これこそが「教師の条件」です。

さらに教職をめざす学生は学校ボランティアに積極的に参加しています。これは実際の学校現場に学び自らの意識・意欲を喚起しようとする進路選択・開拓の一つの取組です。そして、多くの学生が、消防署が開講している救急救命の講習にも積極的に参加しようとしており、児童生徒の教育につかさどるという意識の高まりが見られます。

これらの取組が近い将来出会うであろう児童生徒を思い浮かべ、自らに価値を付加していき教職につく潜在的能力を引き出していくことを願っています。また、この4月から、既卒生を含めて100名を超す本学学生が、教諭として、講師として学校現場の教壇に立ちます。彼らの教育にかける情熱と使命感ある教育実践を期待してやみません。

教職教育センター 角野茂樹

## 【合格体験記】速報第4弾

### 池内 愛さん 大阪府 中学校 英語科 合格

国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科 4回生

みなさん、こんにちは。この度、大阪府の中学校で合格をいただくことができました。ただただ、感謝の気持ちと嬉しさでいっぱいです。思い返してみると、今回合格できたのは、たくさんの方々に支えられて来たからだと思います。教員採用試験を受験する年に入ってから教員採用試験一色になり、ひたすらそのために勉強してきましたが、最後の最後までご指導ご支援してくださった先生方、共に協力し合い切磋琢磨し合った仲間たち、そして応援し続けてくれた家族の存在が私を合格に導いてくれたと思います。

#### ① 最高の出会い

この一年間、本当に先生、仲間を支えられて来ました。自分一人では絶対にここまで来られなかったと思います。私は秋学期に留学に行っていたので、帰国後からサイスペにほぼ毎回参加しました。私一人では怠けがちになって、勉強を続けることが難しかったかもしれません。しかし、サイスペに参加し、先生の熱い指導、まわりのみんなががんばっている所を見ると私も刺激を受け、自然とがんばろうという気持ちになりました。また、そのサイスペの中の数人で勉強会を開き、更に勉強の質を高めました。お互いに指摘し合い向上し合うことで内容の濃い時間を過ごすことができ、合格に繋がったのだと思います。合格をいただいた時にこれまでを振り返り、今まで出会って来た方々に感謝し、最近では、本当の本当に最高の出会いばかりだなと毎日のように思っています。みなさんもそんな最高の出会いをしてもらいたいです。

#### ② 常にポジティブ！

私は、勉強面ではあまり自信はありませんでしたが、とにかくポジティブでいようと心がけていました。ポジティブは私の長所でもあり、また、ポジティブで居続けることで自分や、まわりの仲間たちを支えることができましたと思います。勉強面では頼りになる仲間がたくさんいたので、「私の役割はポジティブに元気であることだ！」と勝手に思い込み、常に明るく、笑顔でいることで場の雰囲気をよくするようにしていました。私の足りない所を仲間を支えられ、不安がっている仲間には持ち前の明るさで励まし、お互いに補い合うことでチームワークをより良くし、ベストな状態で勉強することが一番身になるし、合格への近道だと思います。もし、苦手だと思えることがあれば、戸惑うことなく先生や仲間に頼っていいと思います。そのかわり、「自分にはこれがある！」というもので仲間を支えてあげられればいいと思います。それが私にはポジティブであり、人それぞれに長所短所があるのでそれらを向上、克服し、勉強面に加えて人間力も高めていってほしいです。

最高の出会いは自分の心持ちで決まります。自分が最高だと思えばそれは最高になります。ポジティブであり続けることも難しいです。もちろん落ち込んでもいいと思います。それでも、落ち込むだけ落ち込んだら、今度は上がるしかありません。上を見続けてがんばりましょう！！

## 林 祐輔さん 大阪府 中学校 英語科 合格

国際言語学部 国際コミュニケーション学科 4回生

### 「今、焦っている方へ」

この度、大阪府の中学英語の合格をいただきました、4回生の林 祐輔です。

私は決して勉強ができたわけでもありませんし、スタートダッシュもかなり遅れをとっていました。そんな崖っぷちだった私が振り返って思う、参考にしてほしい失敗体験と成功体験を述べさせていただきます。

#### ① 【失敗体験】筆記の英語がさっぱりわからなかった

教職の授業を取り始めていたころから、先生から「英語力をつけること。話はそれからや！」と何度も言われていました。しかし英語にはあまり手をつけていませんでした。そのツケが試験当日にまわってきました。まったく解くことができず「また来年か」とかなり落ち込みました。これから先生方が勉強会を開きリスニングや筆記の対策もしてくださると思いますが、そのときから対策しては遅いです。英語教科に限らず自分の専門科目を今からでも少しずつ始めてください。きっと余裕をもって受験に臨めるはずですし、教職教養の勉強に時間も回せると思います。

#### ② 【成功体験】参加してみる！

先生方が教採に向けての勉強会や、合宿を開いてくださると思います。私は、勉強会（サイスペ）にできる限り参加するようにしました。当初は「友達がいるから」という気持ちで行っていました。しかし、サイスペで勉強する仲間たちの楽しそうに勉強する姿を見て「次もいこう」と自然に思うことができました。それに仲間と勉強したことがとても大きな成功でした。一人で学習を進めるとどうなるでしょうか。自分のスタイルで勉強を進め、周りの人が何をやっているのかも知らず有益な情報を見過ごす可能性があります。

私はサイスペで仲間から学びました。面接練習にしても、説得力のある人はたくさんいます。仲間の説得力のあるフレーズをサッとメモし、そこから自分の意見を足して自分の言葉に変えていきます。そのおかげでかなり面接に強くなりました。仲間がいたからこそできたことです。それに先生が勉強会で出される問題や面接のテーマが「必ず」当日の試験で出ます。勉強会に参加せずに現役合格はかなり難しいと思いますし、勉強会に参加したほうが楽しく効率よく学べます。

### ③ 【成功体験】本気で教師になりたい！

今、就職活動と教員採用試験で揺らいでいる人はいませんか。私は高校のときから「教師になりたい！」と考えていました。しかし大学4年生になり、周りが次々と内定が決まり不安になりました。「自分の天職は本当に教師なのか？」と真剣に悩んだこともありました。しかし「教師になるぞ！」と決意して、学校ボランティアなどに努めました。この気持ちが面接に生きました。

私は面接練習をしたとはいえど、口下手でした。しかし心の中にある、教師になったときのイメージや自分の夢はスラスラと言いつづけることができました。熱い気持ちも自然に表情に出ているのだと思います。面接官は、話が上手い、下手というテクニックを見ているのではなく、受験者の教師になりたいという気持ちを見極めているのだと思います。

「技」ではなく「心」です。「教師になりたい！」という熱い気持ちを是非もってください。

長くなりましたが、ここまで読んでいただきありがとうございました。私にとって教員採用試験は仲間と協力し、生まれてはじめて楽しく勉強できた大切な思い出です。先生方や仲間への感謝もたくさんあります。みなさんにとっても教員採用試験が良い経験になることを祈っています。

## 村川 欽思 さん 大阪府 高等学校 英語科 合格

国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科 4年生

### “Never stop running”

「いつになったら教員採用試験終わんねん…」これは教員採用試験に向けて私が勉強しているときに感じた正直な気持ちです。3年生の冬くらいから準備を始め、合格発表が出たのは約1年後でした。

現役合格まで全力疾走で駆け抜けるつもりでしたが、あまりの長期戦に途中でスピードを落とすこともありました。しかし、今こうやって教員採用試験に現役合格できたのは、「徹夜で頑張った数」などではなく、決して走ることを(努力し続けることを)やめなかったからだと思います。ですので、少しでもみなさんが「良い意味で」楽ができるように、最後まで走り続けるための2つのポイントを紹介したいと思います。

#### ① Be You !!

アナ雪の「ありのまま」に少し似ていますが、自分自身でありつづけることが重要だと思います。教員採用試験に向けて面接練習をしても、思ってもいないことを言ったり、本に書いてあることをそのまま言ってしまうこともあると思います。これはあくまでも個人的意見ですが、自分を偽って合格を勝ち取っても、これからの教師生活は偽りだらけになるだけだと思います。大切なのは、自分の個性を活かして、それをいかに面接官にアピールするかではない

でしょうか。

もちろん教職教養の延長線で、学校現場のことに関すること等の「教職用語」を知っておくべきときもありますが、結局は自分自身を売り込むような形で練習や本番に取り組んでみてください。そうすれば、採用試験までの1年間は少しは楽しめると思います。

## ② Take it easy...

最後まで走り続けるには無理をしないことが重要だと思います。以前読んだ本にも書いてありましたが、日本人は一度「がんばろう!」と思うと、勉強等のスケジュールを張り切ってつくるので、驚くほどのハードスケジュールを作ってしまう途中で挫折してしまう人が多いそうです。

それを避けるためにも、無理をしない程度に勉強の計画を立てていくことをお勧めします。きっとみなさんのなかにはものすごく熱心な努力家もいて、ハードスケジュールをつくるだけでなく、それをこなしてしまうような人もいます。それはそれで素晴らしいことだと思います。でも、それがなかなかできない人はスロースタートからの徐々に速度を上げていくという形で現役合格まで走り続けるというのも試してみてください。

最後に

以上の2点が、教員採用試験合格まで走り続けるポイントですが、いたってシンプルだとは思いませんか?確かに「英語力の向上」、「ボランティアへの参加」、「東京アカデミーの採用試験対策」等、さまざまな試験対策があるとは思いますが、たまにはもっと根本から考えて、私がお伝えした二つのことを思い出してみてください。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

**下村 敦史さん 大阪府 高等学校 英語科 合格**

**東京都 中学・高等学校 英語科 合格**

**国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科 平成 26 年 3 月卒業**

**(科目等履修生)**

## 「“仲間”と“継続”は“自信”ない」

はじめまして。国際言語学部卒業生の下村敦史と申します。この度、大阪府高等学校、東京都中学・高校の2つの合格をもらうことができました。もちろん、この合格は私一人で勝ち取ったものではありません。最後まで指導して下さった先生方、一緒に励まし合った仲間たち、そして何も言わず「教師」という夢に挑戦させ続けてくれた家族のおかげだと思っています。周りの方々にはいくら感謝しても足りない気持ちです。

さて、私が教員採用試験の準備を始めてから、合格をいただくまでのお話を少しさせていたいただきたいです。これからスタートを切る後輩たちのアドバイスになればと思います。

私は学研都市キャンパスで西村先生が開講してくださっている「サイスペ」に参加させていたでいていました。春休みの9日間集中講座に始まり、春学期は週2回行われていました。そこにほぼ毎回欠かさず参加していました。そこでは採用試験に向けて教職教養の勉強や面接練習などを徹底的に行いました。もちろん、この試験対策はとてもありがたいことでした。ですが、もっとありがたかったことは、一緒に教師をみざす仲間たちと勉強する場、高め合う場を設けてくださったことでした。勉強は1人でもできます。個人の頑張りでなんとでもなります。ですが、1人は不安でしんどいんです。私はサイスペに参加する前に少しかだけ1人で勉強をしていた時がありました。その時は本当に困りました。どこの分野をどう勉強したら良いのかわからないし、どの参考書が使いやすいのかも全くわかりませんでした。他の人がどんな勉強をしているのかわからない。面接の対策はどうしようか。そんな不安もありました。そんなときにサイスペに参加し、一緒に教師をみざす仲間と出会い、いろんな情報を交換し先生に鼓舞していただきながら勉強を進めていくうちにそのような不安は徐々になくなっていきました。

サイスペ以外での勉強ももちろん行っていました。毎日少しずつですがとにかく続けました。毎日といってもせいぜい1～2時間程度でした。しんどくならない程度に一日の勉強量を設定しそれを続けました。「しんどくならない程度に」というところがポイントです。毎日必死に無理に時間を作って勉強しても続けられないと思います。恥ずかしい話ですが、もし私が「一日に3～4時間は勉強しよう」と設定していたら、続けられていなかったと思います。しんどくない量だったからこそ毎日続けられました。教員採用試験は長期戦です。直前に猛勉強して受かるようなものではないと思います。長期戦では粘り続けることが大事になります。勉強を続けるために自分の「しんどくならない勉強量」を設定してください。

「サイスペでの学習」についてと「サイスペ以外での学習」について書かせていただきました。私が伝えたいことは簡単にまとめると、「共にかんばる仲間を作ること」と「とにかく勉強を続けること」です。まずは仲間を作ることから始めてください。1人は大変です。同じ夢を追う仲間はきっとあなたを励ましてくれます。ですから、あなたも仲間を励ましてあげてください。「一緒にがんばろう」の一言は相手と自分のモチベーションを高めてくれます。そして、最初は不安だらけです。みんな不安です。ですから、とにかく勉強を続けてください。自信を付けるために勉強を続けてください。私は何度も何度も繰り返し同じところを勉強して教職教養を身に付けました。何度も何度も繰り返し面接練習をして自分の理想の教師像を語れるようになりました。自信は後からついてきます。勉強を続けてきた時間があなたの自信になります。

関西外大には教員になるための素晴らしい環境があります。先生方は本当に最後まで指導してくださいます。この素晴らしい環境を、協力してくださる方々への感謝の気持ちを持ちながらフルに活用してください。

最後になりましたが、合格をいただくまで本当にたくさんの方々のお世話になりました。この場をお借りして感謝の意を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

# 重 直樹さん 大阪府 高等学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 平成 23 年 3 月 卒業

## 「経験」「仲間」を大切に

私は、このたび大阪府の高校に無事合格することができました。私の合格体験記が少しでも夢に向かってがんばっている皆さんのお力になればと思います。教員採用試験合格に必要なだと思ったことを書いておきます。

### ① たくさんの経験を積む

私は、関西外大を卒業後、京都教育大学特別支援教育特別専攻科に進学し、特別支援学校の教員免許を取得しました。理由としては、関西外大在学中にアルバイトとして働いていたところで特別支援学校の生徒と接する機会があり、それがきっかけで特別支援について勉強してみたいと思い、進学を決意しました。この経験は、授業や普段の学校生活でも活かすことができているし教員採用試験でも十分なアピールポイントになりました。

そして何よりも実際の学校現場で講師としていろいろな経験を積み、仲間と共に教員採用試験に向かってがんばっていたからこそ合格に至ったのだと思っています。経験を積むことにおいて無駄なことは何も無いと思いますが、学校現場で経験を積むことは最大のアピールポイントになります。是非、学校現場での経験を積まれることをおすすめします。

### ② 英語力をつける

私は、講師として経験を積みながら英語の勉強を平行して行っていました。通勤時間を利用して、行きは英字新聞を読む、帰りの電車は英語のニュースを聞くなどできる限り隙間の時間を見つけて英語に触れ合う時間を作っていました。教員採用試験前には、大阪府の過去問を購入して退勤前や休日に過去問を何度も解いて、出題傾向をつかんだり、ライティングに関してはテンプレートを作成したりすることによって当日、考えながら英文を書くことをしなくてもよくなり、試験時間の削減になりました。大阪府は、英語力をアピールする機会がたくさんありますので英検やTOEIC、その他の英語に関する資格を取得したり、経験を積まれたりすることをお勧めします。

### ③ 仲間をつくる

教員採用試験は長期戦になりますので、同じ目標を持つ仲間を持つことをお勧めします。私は、同じ勤務校の講師の方々と一緒にエントリーシートや面接個票を書いたり、添削してもらったりしました。そして、面接練習を退勤前に何度も行いお互いの良い点悪い点を指摘し合うことによって面接で失敗しないための知識と場数を踏みました。仲間を作ることによって悩みを共有したり、高め合うことによって自信をつけることができました。

私は、大学在学中、教員採用試験に合格するための実力が無く、自信も無かったので当然のように試験の不合格通知を受け取ったことを今でも覚えています。私がかここでこられたのは、今までの「経験」と同じ目標を持った「仲間」があったからこそだと思います。皆さんも「経験」「仲間」を大切にして採用試験に挑まれることを願っています。

## OB よい激励のことば

**鳴神 沙紀 さん 神戸市 高等学校 英語科**

**外国語学部 英米語学科 平成 17 年3月 卒業**

### 「自分の感覚を信じて」

こういったタイミングで達成感や充実感を得られるのかは、人それぞれに違いがあり異なります。だからこそ、迷ったり悩んだりしながら様々な選択をし、自分の人生を歩んでいるのだと思います。実際に私は教師としての経験が数年ありましたが、今年度初めて担任をしています。自分の学級を持つまでに時間がありましたが、私はこのタイミングで良かったと感じています。

私の教師人生は、大阪の中学校から始まりました。今までに自分が経験したことも見たこともなく、驚きを隠せない場面が目まぐるしく起こる日々を奮闘していました。何度も心折れそうになる時があり、教室に足も心も向かなくなってしまうような事もありましたが、やはり最後に一番の感動を与えてくれるのは生徒たちでした。どうしてもなく大変な日もたくさんあるのですが、生徒と共有できる心が煌めくような感覚はこの先、どの学校へ行っても変わることはありません。

その2年後のことです。「英語」の教科教育が思うようにできていないと感じる日々を送っていた私は、「英語」をもっと教えたいという気持ちが日を追うごとに大きくなりました。私は大学までスポーツに時間もエネルギーも注いできましたので、長期の海外留学経験もなく英語教育に対する知識も豊富であるとは言えませんでした。このままでいいのかという疑問を持っていた時に、日本語補助教員という選択肢を見つけました。それはNPO法人神戸日豪協会を通じオーストラリアの学校へ行き、日本語補助教員として働くという貴重な経験です。この1年で得たものは、当時の私を大きく変えました。このまま日本語教師としてオーストラリアで働きたいと思い、現地の大学で免許を取ることも本気で考えました。しかし、その思いを変えたのは東日本大震災でした。日本で教育に携わり、日本の子どもたちを育てたいと強く思い帰国を決めました。帰国後は私が変わるきっかけにもなった神戸に「縁」を感じ、現在は神戸市で勤務しています。現在勤務している高校は、今年度文科省からSGH（スーパーグローバルハイスクール）に認定され、様々な国や地域と繋がり交流の輪を広げ、深めています。私自身オーストラリアで得た繋がりから、国境を越えて教育の輪を広げ、協働プロジェクトを計画しています。

ふと振り返ってみると現在に至るまで、まさかまさかの連続でした。私は渡豪するまでに普通

学校、特別支援学校、小学校と校種様々に経験を重ねてきました。経験を重ねる中で、今までに見たことのない色や輝きを見つけることがあります。その一つ一つが、思いもよらぬ場面で自分の味方になってくれたり、自信を持たせてくれたりすることがあります。また、人と人とを繋げ新たなものを生み出してくれます。少しではありますが、そのような経験に出会い始めた今、自分のクラスを持ち40人の生徒と本気で向かい合える準備が出来たのかなと思っています。これからも学ぶ事を共に楽しみ、成長できる自分であり続けたいです。

最後になりましたが、子どもたちは毎日「先生」を通して生き方を見ています。今までどんな事を経験し、向き合ってきたのか。そして、今をどんな風に生きているのだろう。子どもたちは意外にも、教壇に立つ姿の向こうに見えるものを見ているのだなと感じることがよくあります。これから採用試験を受け教師になる皆さん、あなたしか伝えられない「感覚」をたくさん持って子どもたちと向き合う準備をして下さい。心から応援しています。

## シリーズ⑤ 「心の窓を少し開いて！」

【冬・春休みに思う】

ここに、小学6年生の作文があります。

「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには中学、高校と全国大会出て活躍しなければなりません。僕は3歳の時から練習を始めています。3歳から7歳までは半年くらいやっていましたが、3年生の時から今までは365日中360日は激しい練習をしています。だから、1週間で友だちと遊べる時間は5、6時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。

そして、その球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズです。ドラフト入団で契約金は1億円以上が目標です。僕が自信のあるのは投手か打撃です。去年の夏、僕たちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会4試合のうちホームラン3本を打ちました。そして、全体を通した打率は5割8分でした。このように自分でも納得のいく成績でした。だから、この調子でこれからもがんばります。

そして、僕が一流の選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って応援してもらうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は野球選手になることです」  
6年2組 鈴木一朗。

アメリカで活躍する大リーガー、イチロー選手の子どもの時代の作文です。イチロー選手の資質は特別、いわば天才というべきものですが、しかし、この作文が、自分の夢を実現する上で「大事なものは何か」を語っていることも事実です。

まず、第一に自分の夢に対していささかも迷いが無いこと。夢を素直に信じています。つまり夢に対して本気、本腰、がむしゃらであることです。

第二は、自分の夢に対して代償を進んで払おうとする気持ちが強いことです。その代償とは、自分の時間と遊びです。365日中360日激しい練習。友だちと遊ぶのは1週間で5、6時間。素晴らしい言葉に少しの悔いも未練もありません。

そして、第三は、お世話になった人に対して報いるという感謝の心を持っていることです。夢を持ち、その夢を実現すべく燃えることができるのは、全生物のなかでも人間だけです。命を授かった自分の能力をフルに発揮する人生を送りたいものです。

冬休み春休みの期間を有意義に過ごすために大切なことは何でしょうか。

小学校の教員時代に出会った一人の女の子の話をします。

3年1組を受け持った時のことでした。クラスに2年間、ほとんど学校に来ていなかった「さっちゃん」という子どもがいました。

1学期の始業日が近づいた春休みの終わり。

「学校生活に馴染みにくい子どもがいてね。3年生になってクラス替えもあるし、登校するチャンスなので、是非、担任をしてもらいたいが・・・。」と、校長先生に言われた時は、「自分に担任ができるだろうか。」と、正直不安でした。

ところが、さっちゃんは「変身」します。1学期末に保護者懇談会があった時、「先生、あの子が2年ぶりにランドセルを開けて、毎朝、時間割り合わせる姿を見て、おばあちゃんと泣きました。」と、お母さんが言われたのです。

実は、さっちゃんは4月の始業式の途中で「しんどい。」と言って帰ったものの、翌日から毎日、学校へ来ました。

それには訳がありました。

さっちゃん自身、本来はがんばり屋さんであったことと、毎朝、誘ってくれるよう子ちゃんやちずるちゃん存在、そして、TT（ティームティチング）で、彼女の机の横ですっと算数を教えてくれたやすし先生の存在が大きかったのです。

子どもは、毎時間の授業がわかると自信がついてきます。

はじめから学校に行きたくないと思っている子どもは一人もいません。どの子どもも楽しく学校へ行き、みんなと仲よくしたいと思っています。

子どもたちに「どんな学校が楽しい？」と聞くと、答えは3つ返ってきます。

「毎日の勉強がよくわかって、友だちと仲よくできて、給食がおいしいこと。」と。

つまり、

- ① 毎日の勉強がよくわかることは、「学力向上」の課題。
- ② 友だちと仲よくできることは、「仲間づくり」の課題。
- ③ 給食がおいしいことは「基本的生活習慣」の課題です。

このことは、大学生活を送る皆さんにもあてはまることです。キャンパスライフを充実させている人は、学業が順調にすすみ、仲のいい友だちがいて、毎日元気で体調がいい人です。

一つは、この機会に、今一度自分の「目標」「夢」「志」、つまり、教職という進路を見据えた

将来設計をしっかり立てて、履修科目等の復習・予習をすることです。休み中の勉学如何が今後の皆さんの将来を決定します。

二つは、友だちや仲間を大事にして、ボランティア活動などのいろいろな体験をすることです。若い時の豊かな体験や経験は一生の財産になります。長い休みならではの時間の過ごし方ができます。

三つは、毎日決まりある生活を送って健康に気をつけることです。不健康だと体の不調だけでなく、気持ちも塞ぎ込みになり元気が出ません。元気の秘訣は、ぐっすり睡眠、しっかり朝食、すっきり排便からです。

ところで、「冬」は一説では、冬になると山の動物は冬ごもりし、木々の緑も寒さにじっと耐えたりしますが、自然界の生きとし生けるものが、春に向けていのちの希望を膨らまし増やすという意味の「殖ゆ〔ふゆ〕」からきた言葉と言われます。新しい生命の始まりとなる春までの充電期間となる季節です。

また、「春」は、寒さが次第に緩み、草木が芽ぶみ、草花のつぼみが膨らんでパンパンに張ってくるという意味の〔はる〕なのだそうです。

今年一年、気持ちを引き締め、新たな課題にチャレンジしてチェンジする、希望に満ちた輝かしい年にしましょう。

最後に、羊年にちなんで、「羊の毛」とかけまして、「お客さんで賑わう店」ととく、そのころは、「ようもうかってます」（よう儲かってます。）（羊毛刈ってます）-笑い-

#### 編集後記——教職教育センターより——

今年も、1月17日（土）、18日（日）に大学入試センター試験が実施され、53万2350人の受験生が受験をしました。

（独立行政法人大学入試センター発表）

大学入試センター試験に替わり「大学入学希望者学力評価テスト」（仮称）が2021年春入学に向けた試験から導入される中教審高大接続特別部会において了承されました。

英語試験については、「読む、聞く、書く、話す」の4技能を問う内容をすることです。TOEFLの活用も検討されています。

学校現場での英語教育もこれから大きく変化します。国の動向、都道府県教育委員会の動向を注視するようにしてください。